

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成29年5月15日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 生命科学研究所

職 名・学 年 准教授

氏 名 酒 卷 和 弘

助成の種類	<b>平成28年度 ・ 研究者交流支援 ・ 国際研究集会発表助成／一般</b>		
研究集会名	The 20th Evolutionary Biology Meeting (第20回進化生物学研究集会)		
発表題目	New evolutionary perspectives on an essential initiator of apoptotic cell death, caspase-8, and its paralogs		
開催場所	フランス、マルセイユ市、Regional Center of Educational Documentation		
渡航期間	平成28年9月19日 ～ 平成28年9月25日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (要旨とプログラム)		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円	
	使用した助成金額	350,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	渡航費・滞在費	277,806円
		登録料	54,186円
資料作成費		18,008円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

## 国際研究集会発表の成果報告

京都大学生命科学研究科・酒巻和弘

フランスのマルセイユで開催された第20回進化生物学研究集会（9月20日～23日）に参加し、口頭発表、並びにポスター展示によって我々の研究成果を公表した。

進化生物学研究集会は、1997年より規模を拡大しながら毎年開催され、平成28度の集会在20回目であった。研究集会では、進化生物学の概念、生物の多様性、生物間の比較ゲノミックス、機能的系統発生等をテーマとした進化生物学の分野に関連して、世界各国から参加した研究者によって興味深い研究内容が紹介された。また参加者間で熱気に満ち溢れた議論が交わされ、さらに新しい知見の共有や国際的な研究者間の疎通が認められた。今回は特に、異分野からの研究者が数多く招待されたこともあり、幅広い研究内容であった。

本研究集会に参加し研究成果を公表できたことは、我々の発見を世界に向けて発信する良い機会となった。また、進化生物学の専門家の関心を引き寄せる切っ掛けにもなり、彼らと「生物進化とアポトーシス誘導機構の獲得との関係」について十分に話し合う機会ができて有益であった。今回の参加で得られた知見や情報は、今後我々の研究を進める上で大いに役立つと考えている。